

# 第33回あすなろ夢建築

## 大阪府公共建築設計コンクール

### 入選作品集

主催 大阪府  
公益社団法人大阪府建築士会  
大阪府住宅供給公社

後援 大阪府教育委員会  
一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会

協賛 一般社団法人日本建築協会  
一般社団法人大阪府建築士事務所協会  
公益社団法人日本建築家協会 近畿支部 大阪地域会  
一般財団法人大阪建築防災センター  
一般財団法人日本建築総合試験所  
一般社団法人公共建築協会  
公益社団法人日本建築積算協会 関西支部  
公益財団法人建築技術教育普及センター 近畿支部

「あすなろ夢建築」  
大阪府公共建築設計コンクール事務局  
大阪府都市整備部住宅建築局公共建築室計画課  
〒559-8555 大阪市住之江区南港北1-14-16  
TEL:06-6941-0351 (代表)

令和6年3月発行

課題 大阪府営山田池公園の休憩所

テーマ 柔らかなまなざしで見守る休憩所

# コンクール概要・総評

このコンクールは、小規模な公共建築物を題材とした実践教育の場を提供することにより、将来の建築技術者の育成を図るとともに、永く府民に愛され親しまれる公共建築づくりを推進することを目的として、府内の建築を学ぶ高等学校生、専修学校生などから提案を募集し、グランプリに選定された作品の提案趣旨を活かして事業化を行うものです。

**課題** 大阪府営山田池公園の休憩所

**テーマ** 柔らかなまなざしで見守る休憩所

## 主な設計条件

**【所在地】** 枚方市山田池公園

**【計画地面積】** 約 690 m<sup>2</sup>

**【床面積】** 15m<sup>2</sup>～25m<sup>2</sup>程度

**【構造】** 原則木造（鉄骨造、鉄筋コンクリート造を用いたハイブリット工法の提案についても可）

**【規模】** 平屋建て（屋根あり、地下なし、屋上利用なし）

## 作品受付期間

令和6年1月5日（金）～1月12日（金）

## 応募資格

大阪府内に所在する学校のうち、学校教育法の規定による工業高等学校（工科高等学校）・短期大学・工業高等専門学校・専修学校・各種学校及び、職業能力開発促進法に基づく高等職業技術専門校の建築関連学科に在籍する学生・生徒であり、個人又は3名以下のグループ（共同制作）での応募とします。

## 応募区分

**【第1部】** 工業高等学校（工科高等学校）に在籍する生徒

**【第2部】** 短期大学・工業高等専門学校・専修学校・各種学校  
及び、高等職業技術専門校に在籍する学生

## 応募状況

**【応募校数】** 14校

**【応募作品数】** 178点（うち 第1部71点、第2部107点）

**【応募人数】** 190人（うち 第1部71人、第2部119人）

### 【第1部】（計5校）

大阪府立工芸高等学校

堺市立堺高等学校

大阪府立今宮工科高等学校（定時制）

大阪府立都島工業高等学校

堺市立堺高等学校（定時制）

### 【第2部】（計9校）

近畿職業能力開発大学校

大阪芸術大学附属大阪美術専門学校

大阪公立大学工業高等専門学校

大阪府立北大阪高等職業技術専門校

大阪市立デザイン教育研究所

修成建設専門学校

大阪建設専門学校

大阪工業技術専門学校

中央工学校OSAKA



山田池



審査会

## 審査委員

### 【審査委員長】

岩田 章吾  
(武庫川女子大学生活環境学部生活環境学科教授)

### 【審査委員】

下村 泰彦  
(大阪公立大学名誉教授)

角田 曜治  
(京都工芸繊維大学デザイン・建築学系教授)

堀部 直子  
(株式会社Horibe Associates 管理建築士)

難波 孝行  
(大阪府都市整備部公園課長)

植野 甚一  
(大阪府都市整備部住宅建築局公共建築室長)

## 総評

今回の課題は、山田池公園の自由広場に設ける休憩所でしたが、市道からの視線を遮らないなど、課題としては難しい点が多かつたので、応募された皆さんは結構苦労したのではないかと思います。それでも190名の応募者178点の応募作品があり、魅力的な案が数多くあったことは喜ばしい限りです。

今回は休憩所設置の敷地と、公園として提案可能な部分があり、一体として、自由広場にどのような場が提案できるかも問う課題でありましたが、休憩所はよくデザインされているものの、この部分を活用し、自由広場とどのような関係をつくりだすかという視点を持ったものが少なかったように思います。提案したものがどのような場を作り出し、それが周辺にどのようなポジティブな影響を与えるかをしっかりと想像してほしいと思います。また、課題の難しさからでしょうか、完成度は高いものの従来通りの休憩所の域を出ていない案も少なくありませんでした。実施を前提とするから致し方ないのかもしれません、そういった条件下でも新たな可能性を問う気概が欲しいところです。

## 入選作品の講評

### （グランプリ）「古往今来」

敷地の高低差を利用し階段状にすることで、敷地の特性をうまく活かして多数の人が休憩できる計画となっている。また、市道からの視線を遮ることなく、公園に対して開かれた場を提供できている。事業化にあたり調整は必要となるが、維持管理面にも優れたデザインである点からグランプリにふさわしいと判断した。

### （準グランプリ）「home」

公園にリビングスペースと称した小スペースを配した魅力的な計画となっている。連続した様々なレベルのリビングスペースが休憩だけでなく多様な居場所を作りだしている点を評価した。しかし、建物前面の段差はすべてを階段状にせず、元の敷地形状を活かした方がより良い作品に仕上がったと思われる。

### （優秀作品賞）「集成材のフレームでつなぐ

山田池公園休憩所」

休憩施設で休息する大人に対して、見守ることのできる近接した場所に子ども達が遊べる遊具を配置している点が評価できる。また、細やかなアイデア提案が盛り込まれており好感が持てるが、アイデアに統一感がなく、全体として若干とりとめのない印象があった。

### （優秀作品賞）「自然と人と、永遠のくつろぎを」

工法、コスト、植栽、バリアフリーまで細やかに検討した良案である。また、敷地全体を活かしている点、利用人数を自由に選択できる点、季節の花を身近に感じながら休憩できる点など非常に優れていた。しかし、パークののみの提案となっており、急な雨天時の避難や猛暑時の休憩の場としては不十分と判断した。

### （佳作）「竹の園」

非常に美しい造形と図面、パース、ダイアグラムなど完成度の高いプレゼンテーションが際立った案である。竹を使用した独創的な計画となっているが、今回の計画地と竹の特別な関係や選択した理由について述べられていればより良かった。また、コスト、維持管理面、耐久性など実現の可能性について懸念が残った。

### （佳作）「ポリゴンで構成する山田池の休憩所」

デザインと構造形態が融合されたユニークな形が魅力的な案である。雨に対して意識を向いている点も素晴らしいが、その雨水処理を普通の鎖樋にするのではなく、既成概念にとらわれず、雨水の流れをここでの体験に取り込むことを考えてもらいたい。また、膜構造ではなく、剛性のある板材の方が実現性は高かったのではないか。

### （佳作）「鳥と緑が囲むオアシス

ほのぼのとしたひと時を」

学級新聞のようなほのぼのとしたプレゼン構成は良いが、文字だけではなくビジュアルを使って表現した方が空間の魅力が伝わりやすい。案自体は、若干オーバーデザインのため、もう少しシンプルな案で、この世界を表現できればより高い評価になったであろう。

### （奨励賞）「浮かぶ休憩所」

テンセグリティ構造を採用した先鋭的な案である。造形もユニークで、外観、内部空間ともに魅力的で大きな遊具にもなるような提案となっている。一方、構造上への懸念や壁による視認性の低さが指摘された。また、今回の計画地ならではの提案や、周りの敷地を含めた提案があるとより良い作品に仕上がったと思われる。

### （奨励賞）「広場を望む 憩いの並木」

シンプルなデザインの休憩所であるが、ルーバーを設置して木漏れ日を再現するなど並木のイメージに近づける配慮が面白い。また、開放性が高く、死角をなくし、コスト面に寄与している点も評価できる。しかし、この場所ならではの提案やベンチの高さだけでなく、大きさを変えるなど利用面での工夫提案が欲しいと感じた。

### （奨励賞）「貴く光の休憩所」

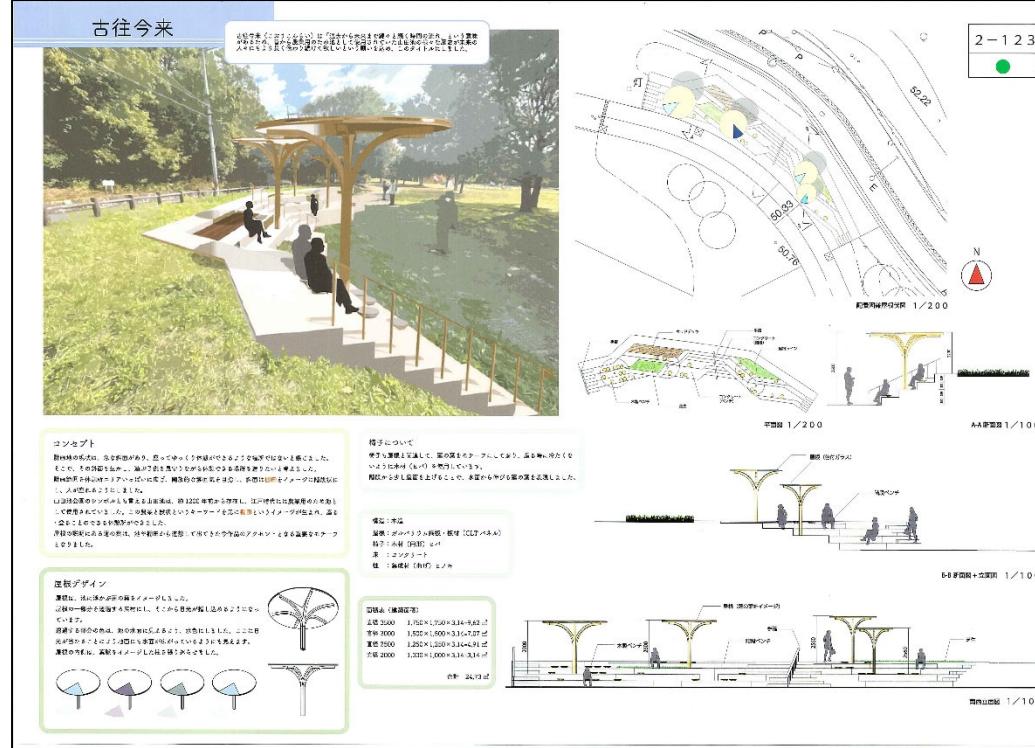
C型とL型の細い木製フレームを組み合わせたシンプルなプランだが、光の落ち方がデザインされた美しい提案である。一方、ルーバーのみの休憩所で耐候性や日よけがないという点において疑問が残る。また、建築地のみの提案であり、立地状況や周辺の状況との関係性に関わる分析、提案にかけている。

# グランプリ・準グランプリ・優秀作品賞

## グランプリ 「古往来」

えみ さとり き がいひん あんようじ しおみ  
江見 聰梨・祁 凱斌・安養寺 葵海

大阪芸術大学附属大阪美術専門学校

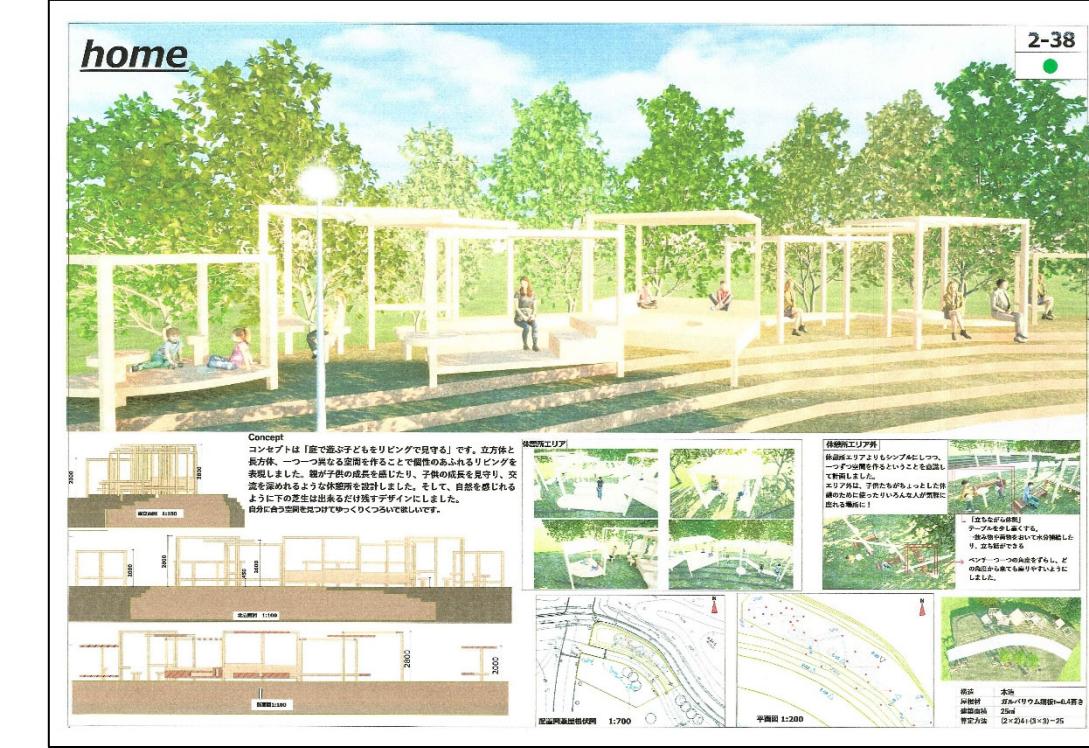


計画範囲を休憩所エリア  
いっぱいに広げ、開放的な  
雰囲気を目指し、斜面は棚  
田をイメージに階段状にし、  
人が座れるようにしました。  
山田池公園のシンボルとも  
いえる山田池は、約1200年  
前から存在し、江戸時代には  
農業用のため池として  
使用されていました。  
この農業と段状というキ  
ーワードを元に棚田というイ  
メージが生まれ、座る・登  
ることのできる休憩所がで  
きました。

## 準グランプリ 「home」

なかがわ まな  
中川 愛

修成建設専門学校



コンセプトは「庭で遊ぶ子  
どもをリビングで見守る」  
です。立方体と長方体、一  
つ一つ異なる空間を作ること  
で個性のあふれるリビン  
グを表現しました。親が子  
どもの成長を感じたり、子  
どもの成長を見守り、交流  
を深められるような休憩所  
を設計しました。そして、  
自然を感じられるように下  
の芝生は出来るだけ残すデ  
ザインにしました。自分に  
合う空間を見つけてゆっく  
りくつろいで欲しいです。

## 優秀作品賞

### 「集成材のフレームでつなぐ」

#### 山田池公園休憩所

きど りょう

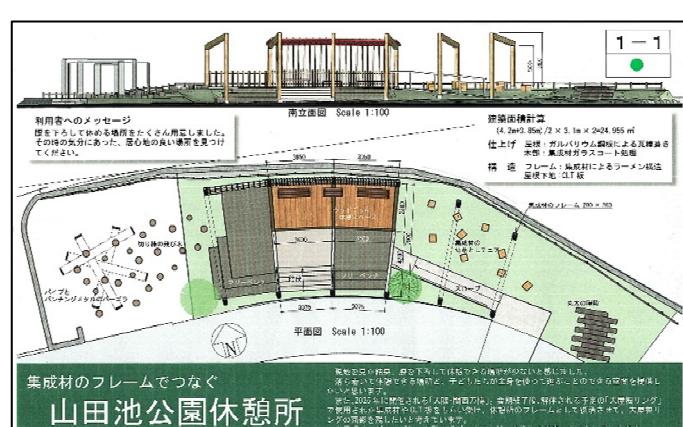
城戸 亮 堺市立堺高等学校（定時制）

現地を見た結果、腰を下ろして休憩できる場所が少ない  
感じました。

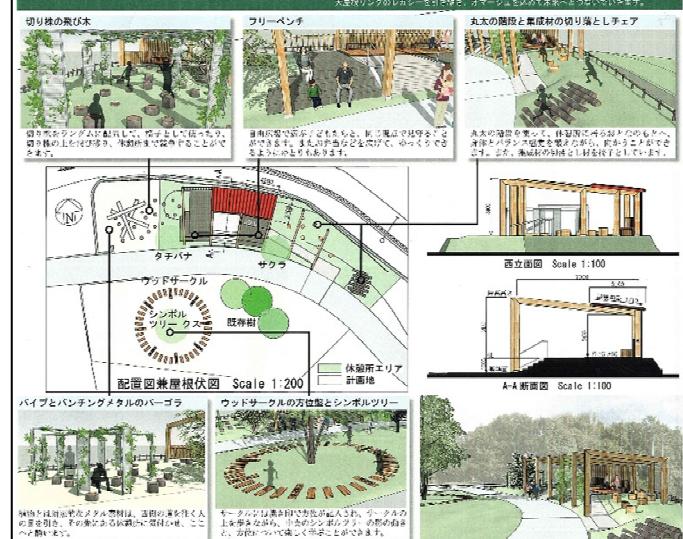
落ち着いて休憩できる場と、子どもたちが全身を使って遊  
ぶことのできる空間を提供したいと思います。

また、2025年に開催される「大阪・関西万博」。会期終了  
後、解体される予定の「大屋根リング」で使用された集成  
材やCLT板をもらい受け、休憩所のフレームとして復活さ  
せて、大屋根リングの面影を残したいと考えています。

大屋根リングのレガシーを引き継ぎ、オマージュを込めて  
未来へとつないでいきます。



### 山田池公園休憩所



## 優秀作品賞 「自然と人と、永遠のくつろぎを」

やまもと りくた

山本 陸太 大阪公立大学工業高等専門学校



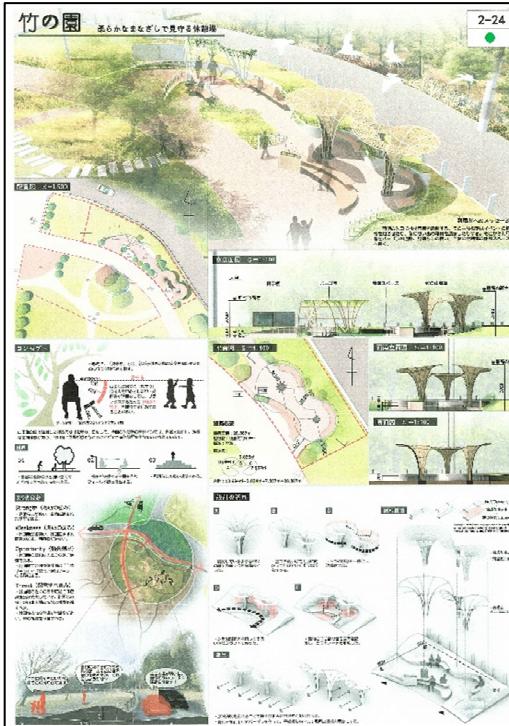
斜面を活かしたこの休憩  
所では自然に囲まれなが  
ら、高さや奥行きに変化  
のある空間を楽しむこと  
ができる。来園者は自分  
のスケールにあった場所  
を選択し、その目的や滞  
在時間に応じたくつろぎ  
を得る。何度も訪問しても、  
選択するベンチや気候・  
風景によって視線が変化  
し、飽きない空間を与え  
続ける。“自然とともに、  
人と人を繋げる”そのよ  
うな、“長く愛され続け  
る憩いの場”を提案する。

# 佳作・奨励賞

## 佳作

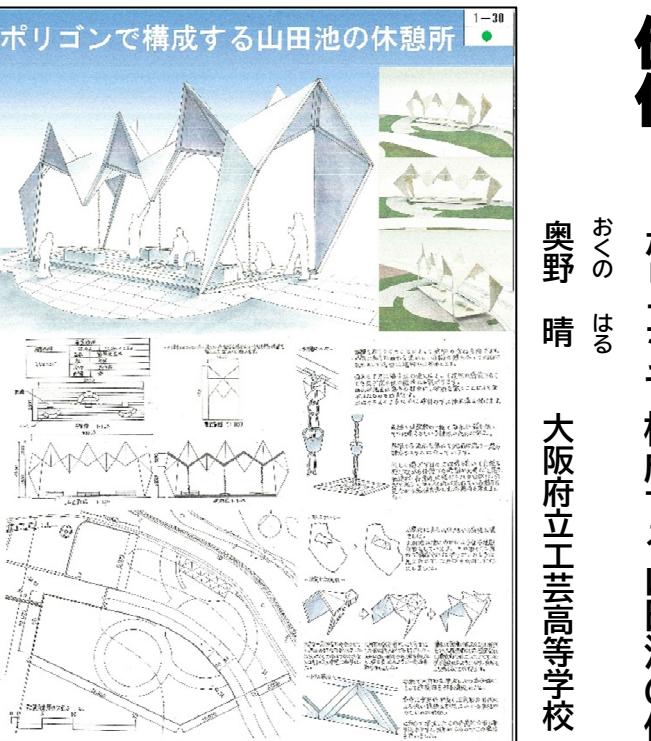
「竹の園」  
羅俊林

修成建設専門学校



一般的に、「見守り」とは、親が子どもの活動の安全を保証するために行う守護行為をさしますが、山田池公園での「見守り」は個人を中心とした中・高齢者が時間つぶし、リラックスするために「周辺の物事」を観察する行為であることが多いと考えました。そこで、山田池公園で注目した特徴的な「見守り」に対して、今回の休憩所デザインでは、自然と調和し、多様な空間体験があり、利用者に居場所感を与えることができる休憩所を作りたいと考えています。

## ポリゴンで構成する山田池の休憩所



形については公園内にある山田池から着想を得ました。山田池は横に伸びたような不規則な形をしています。その形が三角形で構成されたポリゴンのように見えたので、三角形を多用した形にしました。忙しく過ごす日々には落ち着いて自然を感じながら休憩する時間が必要であり、私達が一番身近に感じられる自然は雨だと思う。雨樋を設けることで、そんな雨が流れている様子を見ながら風情を楽しむ休憩所を考えました。

## 佳作

「鳥と緑が囲むオアシス」  
谷村凜

ほのぼのとしたひと時を



山田池公園は野鳥が多く生息しており、様々な種類の鳥を見ることができます。そんな魅力の詰まった公園で、私は鳥と自然、そして私たち人をテーマとした休憩所を計画しました。計画地の近くには、住宅が並んでおり、人の行き来する場所には適切な場所だと考えます。なので立ち寄りやすく、楽しみ、ゆっくり休憩ができるように形や高さ、周りとの調和を大事にしました。

## 佳作

「鳥と緑が囲むオアシス」  
谷村凜  
大阪府立工芸高等学校

## 奨励賞 「浮かぶ休憩所」

ひだか ことら  
日高 煌虎

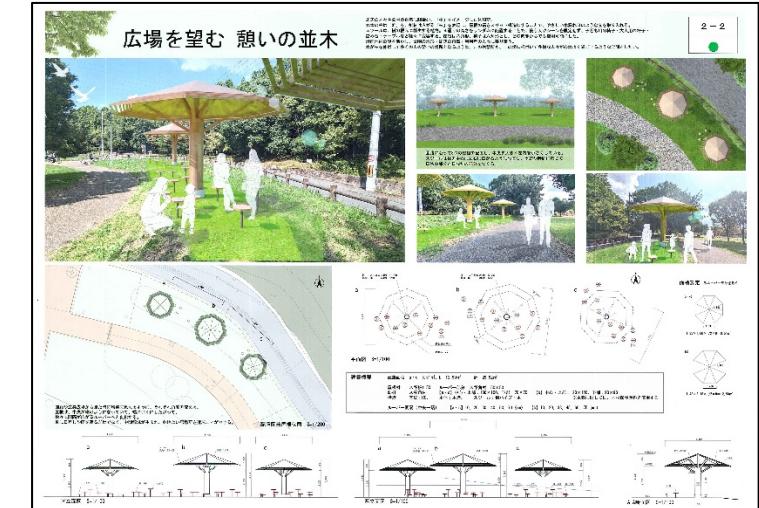


大阪府立都島工業高等学校

多くの人が集まるこの公園。しかし利用者の多くが、子どもか高齢者である。そのため多くの年代にも来てほしいと考えた。歩いていてふと目に留まり、気になってつい写真を撮ったり座ってみたりするような休憩所。テンセグリティ構造を使い、一見浮いているように見える。土台には椅子を設け、休憩所としても使いやすくなっている。中から外が見やすく防犯面や子どもの見守りにも最適である。

## 奨励賞 「広場を望む 憩いの並木」

まつばら むつよ  
松原 瞳世  
大阪建設専門学校



周辺の木々や公園の自然に馴染む、「樹」をイメージした休憩所。丸太の柱は「幹」を、斜材は広がる「枝」を表現し、屋根の端をスリット構造にすることで、やさしい木漏れ日のような光を取り入れる。スツールは、樹の根元に群生する植物。4通りの高さをランダムに配置することで、使う人やシーンを限定せず、子ども用の椅子・大人用の椅子・踏み台・テーブルなど様々に変容する。屋根は八角形、椅子は六角形とし、どの向きからでも使用可能にした。計画地の緑を活かし、公園の地形・周辺の自然・利用者の人々に寄り添う。

## 奨励賞 「貫く光の休憩所」

ふじもと あいき  
藤本 愛己

大阪府立工芸高等学校



歴史や人々の繋がりや流れ、そしてその先の未来をコンセプトに休憩所を計画。建築材料には水、湿度に強く耐久性もあり加工もしやすいヒノキを使用。東西にアーチをルーバー状に並べ、北から南にかけて東西のアーチの上に被るような形でルーバーを設置。そうすることで上空に網目模様が浮かび上がる。間隔をあけて配された木々は流れるを感じさせ、網目模様は繋がりを感じさせる。またその網目模様から貫く無数の陽の光は私たちに未来への希望を感じさせてくれる。